

懲罰的社員管理反対！ 「営利優先・運行第一・社員への責任追及・労使癒着 の不安定な企業体質」を一新する集会を実現！

10月25日、私たち東海労はリバティおおさかにおいて開催された、西労主催の上記集会に参加してきました。JR西労の仲間たちは、JR福知山線脱線事故以来、亡くなった運転士が事故直前に伊丹駅をオーバーランしていたこと、事故以前にもオーバーランによる日勤教育を受けていた事実から、JR西日本の「命令と服従」の社員管理の象徴である「日勤教育」を事故の原因として社会に訴えてきました。



西労の仲間たちは社会に訴えるために、2006年4月27日に264名の原告による「日勤教育裁判」を提訴しました。こうした取り組みにより「日勤教育」は社会問題化し、事故調査委員会による調査にも反映されました。西労の仲間たちによる「日勤教育」撤廃の闘いは、JR西日本の不安定な企業体質とそれを築き上げた井手元会長の悪行を満天下に暴き出したのです。裁判は大阪高裁での和解勧告により集結することとなりましたが、会社の企業体質そのものは何等変わった訳ではありません。

今回の集会は、企業体質の一新に向けてさらに闘いを継続するべき節目にあたるものとして成功裡に実現されたものです。集会では主催者挨拶に続き、JR福知山線脱線事故ご遺族の「藤崎光子」様よりのご挨拶、その後ジャーナリストの「大谷明宏」様より講演を受けていきました。JR総連各単組からの連帯の挨拶のあと、最後に集会アピールを採択し終了しました。

会社が違って、ものを言う労働組合が嫌われる現実はなんら変わりません。労働組合がお利口さんになっては、労働者が報われません。私たち東海労は、JR西労の仲間たちと連帯し、東海の職場から働く者が報われる職場をつくりだすために今後も頑張っていくことを確認しました。